

第6回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 理事会

日 時：平成23年 6 月16日（木）午前 7 時～7 時50分

場 所：パレスホテル大宮 3階チェリールーム

出席者：市村（理事長），飯野，小河原，川崎，工藤，小林，坂田，佐野，鈴鹿，泰地，内藤，長井，春名，氷見，福永，細井（理事），大越，安岡（監事），川城（顧問），西（第7回会長），安達，香山，佐々木，深美，福島，吉田（幹事）（50音順，敬称略）

（1）市村恵一理事長挨拶

市村理事長より本大会開催にあたって挨拶が述べられた。2期6年に及ぶ理事長の任期を終えるにあたり謝意が述べられた。古賀前委員長から運営委員長を引き継ぎ，任期中に学会に昇格し，演題数・会員数が増えたこと，小児耳鼻咽喉科医の到達目標を設定し，診療指針を出版したこと，など一応基盤作りはできたので，次の理事長に引き継ぐが，本会は更に発展してほしいとの要望が述べられた。

（2）飯野ゆき子第6回会長挨拶

飯野ゆき子第6回会長より，開催にあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

（3）平成22年度事業報告（庶務：泰地理事）

〔平成22年5月1日 - 平成23年4月30日〕

- 1) 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年6月26日-27日の2日間，札幌コンベンションセンターにおいて氷見徹夫会長のもとに開催した。
- 2) 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成24年に岡山大学大学院医歯薬総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科，西崎和則会長のもとに開催することが決定した。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第31巻2号，3号，および第32巻1号を刊行した。
- 4) 理事会および評議員会を平成22年6月26日に開催した。
- 5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 6) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力した。
- 7) 会則の改定案を作成し，承認を得た。
- 8) 日本小児耳鼻咽喉科学会の役員改選の選挙事務を行った。

9) ad hoc委員会として、会則改定・法人組織移行検討（新公益法人制度）・人工内耳・専門医制度の4つの委員会を設けた。

10) 小児気管切開患者のアンケート調査を支援した。

11) 庶務報告：平成23年6月15日現在

名誉会員2名

正会員969名（うち22年度入会者97名）

団体会員11名

購読会員5名

寄贈会員8名

開催当日の現会員数は995名で、1000名まであと5名となった。

（4）平成21年度決算報告（会計：小河原理事）

小河原会計担当理事より決算報告，資産の説明があった。

（5）会計監査報告（監事：大越，安岡監事）

平成22年5月31日に小宮山印刷において監査が行われ，適正であったことが報告された。

以上決算が承認された。

（6）平成23年度事業計画（案）（庶務：泰地理事）

[平成23年5月1日-平成24年4月30日]

1) 第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成23年6月16日-17日の2日間，において飯野ゆき子会長のもとに開催する。

2) 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成24年に岡山大学大学院医歯薬総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科，西崎和則会長のもとで開催に向け準備する。会期は平成24年6月21日-22日，会場は岡山コンベンションセンターである。

3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第32巻2号，3号，および第33巻1号を刊行する。

4) 理事会および評議員会を平成23年6月16日に開催する。

5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。

6) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。

7) ホームページの維持，充実をはかる。

8) JST電子アーカイブ事業に応募するなど，論文の電子化公開を検討する。

（7）平成23年度予算（案）（会計：小河原理事）

平成23年度予算案について報告があり，承認された。

(8) 学会誌編集報告 (編集：工藤理事)

学会誌の発行部数，参考文献の書き方の変更，編集委員会開催，査読者への謝礼，JSTアーカイブ事業への申請と公開，「小児急性中耳炎診療ガイドライン」一般向け小冊子について，編集委員長及び編集委員の交代についての報告があった。

(9) 各種委員会報告

1) ホームページ委員会 (ホームページ委員：飯野理事)

年 3-4 回更新をおこなっている。さらにリンクを増やすなど，充実を図っていくことについての説明があった。

2) 用語委員会 (委員長：細井理事)

特に大きな変更はなかったとの説明があった。

3) 保険医療委員会 (委員長：佐野理事)

医療上必要性の高い未承認の薬物と保険適応外薬物のアンケートについての説明があった。

4) 各ad hoc委員会

会則改定委員会 (委員長：内藤理事)

今後の法人化にともなって会則改定検討や，専門医制度の立ち上げなどを考慮する必要があると説明された。利益相反について，日本耳鼻咽喉科学会の指針をもとに検討してゆく方針である。

法人組織移行検討委員会 (委員長：坂田理事)

一般社団法人または NPO 法人への移行について，メリットやデメリットを提示し，今後本格的に申請していきたいとの説明があった。

人工内耳委員会 (山中理事)

報告なし

5) 日耳鼻の関連する学会について (市村理事長)

各学会の会期や担当校を3年先まで決定してほしいという要望があった件と，サブスペシャリティの検討について報告があった。国際会議は2年間延期となっている。

(10) 選挙管理委員会報告 (大越選挙管理委員長)

新理事の立候補者数が18名，新監事立候補者数が2名で定数内であったため，選挙は行わず，全員承認されたことが報告された。

(11) 第8回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より，群馬大学小児科の荒川浩一教授が推薦され承認された。

(12) 第9回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より，群馬大学小児科の荒川浩一教授が推薦され承認された。

(13) 評議員の推薦の件 (市村理事長)

竹内万彦教授 (三重大学耳鼻咽喉科)

武田憲昭教授 (徳島大学耳鼻咽喉科)

河田 了教授 (大阪医科大学耳鼻咽喉科)

伊藤眞人准教授 (金沢大学耳鼻咽喉科)

余田敬子准教授 (東京女子医科大学耳鼻咽喉科)

以上5名が推薦され、承認された。

(14) 第7回総会・学術講演会西和則会長挨拶

平成24年6月21日 (木)・22日 (金) の2日間、岡山コンベンションセンターで開催される。年次幹事に福島先生を指名することが説明された。

(15) その他 (市村理事長)

1) 肺炎球菌抗原検査キットは中耳炎・副鼻腔炎には感度が悪く、肺炎だけで承認されていた。その後、感度を上げた新たな製品が作られたので、インフルエンザ菌とともに、保険適応の要望書を小児耳鼻咽喉科学会・臨床検査医学会と連名で提出したい、との説明があり承認された。

2) 日本看護協会認定看護師制度部会から、本学会に小児救急認定看護師が参加した場合、ポイントになるように認めてほしいという要望があったことが報告され、承認された。参加費などについては今後検討する。

3) 市村理事長より、東日本大震災で被災した小宮山印刷にお見舞を送ることが提案され、承認された。

文責：安達のどか

香山智佳子

佐々木祐佳子

深美 悟

第6回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 新理事会

日 時：平成23年 6 月16日（木）午前 7 時～7 時50分

場 所：パレスホテル大宮 3階チェリールーム

出席者：市村（理事長），飯野，小河原，川崎，工藤，小林，坂田，佐野，鈴鹿，泰地，内藤，長井，春名，氷見，福永，細井（理事），大越，安岡（監事），川城（顧問），西（第7回会長），安達，香山，佐々木，深美，福島，吉田（幹事）（50音順，敬称略）

（1）市村恵一理事長挨拶

市村理事長より本大会開催にあたって挨拶が述べられた。2期6年に及ぶ理事長の任期を終えるにあたり謝意が述べられた。古賀前委員長から運営委員長を引き継ぎ，任期中に学会に昇格し，演題数・会員数が増えたこと，小児耳鼻咽喉科医の到達目標を設定し，診療指針を出版したこと，など一応基盤作りはできたので，次の理事長に引き継ぐが，本会は更に発展してほしいとの要望が述べられた。

（2）飯野ゆき子第6回会長挨拶

飯野ゆき子第6回会長より，開催にあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

（3）平成22年度事業報告（庶務：泰地理事）

〔平成22年5月1日 - 平成23年4月30日〕

- 1) 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年6月26日-27日の2日間，札幌コンベンションセンターにおいて氷見徹夫会長のもとに開催した。
- 2) 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成24年に岡山大学大学院医歯薬総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科，西崎和則会長のもとに開催することが決定した。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第31巻2号，3号，および第32巻1号を刊行した。
- 4) 理事会および評議員会を平成22年6月26日に開催した。
- 5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 6) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力した。
- 7) 会則の改定案を作成し，承認を得た。
- 8) 日本小児耳鼻咽喉科学会の役員改選の選挙事務を行った。

9) ad hoc委員会として、会則改定・法人組織移行検討（新公益法人制度）・人工内耳・専門医制度の4つの委員会を設けた。

10) 小児気管切開患者のアンケート調査を支援した。

11) 庶務報告：平成23年6月15日現在

名誉会員2名

正会員969名（うち22年度入会者97名）

団体会員11名

購読会員5名

寄贈会員8名

開催当日の現会員数は995名で、1000名まであと5名となった。

（4）平成21年度決算報告（会計：小河原理事）

小河原会計担当理事より決算報告，資産の説明があった。

（5）会計監査報告（監事：大越，安岡監事）

平成22年5月31日に小宮山印刷において監査が行われ，適正であったことが報告された。

以上決算が承認された。

（6）平成23年度事業計画（案）（庶務：泰地理事）

[平成23年5月1日-平成24年4月30日]

1) 第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成23年6月16日-17日の2日間，において飯野ゆき子会長のもとに開催する。

2) 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成24年に岡山大学大学院医歯薬総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科，西崎和則会長のもとで開催に向け準備する。会期は平成24年6月21日-22日，会場は岡山コンベンションセンターである。

3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第32巻2号，3号，および第33巻1号を刊行する。

4) 理事会および評議員会を平成23年6月16日に開催する。

5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。

6) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。

7) ホームページの維持，充実をはかる。

8) JST電子アーカイブ事業に応募するなど，論文の電子化公開を検討する。

（7）平成23年度予算（案）（会計：小河原理事）

平成23年度予算案について報告があり，承認された。

(8) 学会誌編集報告 (編集: 工藤理事)

学会誌の発行部数, 参考文献の書き方の変更, 編集委員会開催, 査読者への謝礼, JSTアーカイブ事業への申請と公開, 「小児急性中耳炎診療ガイドライン」一般向け小冊子について, 編集委員長及び編集委員の交代についての報告があった。

(9) 各種委員会報告

1) ホームページ委員会 (ホームページ委員: 飯野理事)

年 3-4 回更新をおこなっている。さらにリンクを増やすなど, 充実を図っていくことについての説明があった。

2) 用語委員会 (委員長: 細井理事)

特に大きな変更はなかったとの説明があった。

3) 保険医療委員会 (委員長: 佐野理事)

医療上必要性の高い未承認の薬物と保険適応外薬物のアンケートについての説明があった。

4) 各ad hoc委員会

会則改定委員会 (委員長: 内藤理事)

今後の法人化にともなって会則改定検討や, 専門医制度の立ち上げなどを考慮する必要があると説明された。利益相反について, 日本耳鼻咽喉科学会の指針をもとに検討してゆく方針である。

法人組織移行検討委員会 (委員長: 坂田理事)

一般社団法人または NPO 法人への移行について, メリットやデメリットを提示し, 今後本格的に申請していきたいとの説明があった。

人工内耳委員会 (山中理事)

報告なし

5) 日耳鼻の関連する学会について (市村理事長)

各学会の会期や担当校を3年先まで決定してほしいという要望があった件と, サブスペシャリティの検討について報告があった。国際会議は2年間延期となっている。

(10) 選挙管理委員会報告 (大越選挙管理委員長)

新理事の立候補者数が18名, 新監事立候補者数が2名で定数内であったため, 選挙は行わず, 全員承認されたことが報告された。

(11) 第8回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より, 群馬大学小児科の荒川浩一教授が推薦され承認された。

(12) 第9回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より、群馬大学小児科の荒川浩一教授が推薦され承認された。

(13) 評議員の推薦の件（市村理事長）

竹内万彦教授（三重大学耳鼻咽喉科）

武田憲昭教授（徳島大学耳鼻咽喉科）

河田 了教授（大阪医科大学耳鼻咽喉科）

伊藤真人准教授（金沢大学耳鼻咽喉科）

余田敬子准教授（東京女子医科大学耳鼻咽喉科）

以上5名が推薦され、承認された。

(14) 第7回総会・学術講演会西和則会長挨拶

平成24年6月21日（木）・22日（金）の2日間、岡山コンベンションセンターで開催される。年次幹事に福島先生を指名することが説明された。

(15) その他（市村理事長）

1) 肺炎球菌抗原検査キットは中耳炎・副鼻腔炎には感度が悪く、肺炎だけで承認されていた。その後、感度を上げた新たな製品が作られたので、インフルエンザ菌とともに、保険適応の要望書を小児耳鼻咽喉科学会・臨床検査医学会と連名で提出したい、との説明があり承認された。

2) 日本看護協会認定看護師制度部会から、本学会に小児救急認定看護師が参加した場合、ポイントになるように認めてほしいという要望があったことが報告され、承認された。参加費などについては今後検討する。

3) 市村理事長より、東日本大震災で被災した小宮山印刷にお見舞を送ることが提案され、承認された。

文責：安達のどか

香山智佳子

佐々木祐佳子

深美 悟

第6回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 新理事会

日 時：平成23年6月16日（木）午前8時～8時30分

場 所：パレスホテル大宮3階チェリールーム

出席者：（50音順，敬称略）

荒川浩一，宇佐美真一，小林一女，河野陽一，坂田英明，阪本浩一，鈴鹿有子，鈴木雅明，高瀬真人，長井今日子，中川尚志，西和則，春名眞一，氷見徹夫，増田佐和子，峯田周幸，守本倫子，山唄達也（新理事）

飯野ゆき子（第6回会長）

深美 悟（幹事，選挙管理委員会副委員長）

・飯野第6回会長の挨拶

飯野ゆき子第6回会長より，開催にあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

・新理事長の選出

新理事18名の出席の下，新理事長選挙が行われ，過半数を超えた氷見徹夫理事が選出された。

・氷見新理事長の挨拶

今後の学会運営に関する意欲，協力に対する謝意が述べられた。市村恵一前理事長が顧問に推薦された。

文責 深美 悟（選挙管理委員会 副委員長）

第6回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 評議委員会

日 時：平成23年 6 月16日（木）午前 8 時40分～9 時20分

場 所：大宮ソニックシティ4階国際会議室

出席者：市村（理事長），飯野，小河原，工藤，小林，坂田，佐野，鈴鹿，泰地，内藤，長井，春名，氷見，福永，細井（理事），大越，安岡（監事），川城，田中（顧問），愛場，荒川，井口，宇佐美，奥中，小林，後藤，阪本，笹村，鈴木雅，高瀬，中川，仲野，西，林，増田，益田，松谷，峯田，宮崎，守本，家根，山唄（評議員），安達，香山，佐々木，深美，福島，吉田（幹事）（50音順，敬称略）

（1）飯野ゆき子第6回会長挨拶

飯野ゆき子第 6 回会長より，本大会開催にあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

（2）市村恵一理事長挨拶

第5回会長氷見先生より，協力・支援に対する謝意が述べられた。

（3）平成22年度事業報告（庶務：泰地理事）

〔平成22年 5 月 1 日-平成23年 4 月30日〕

- 1) 第5回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成22年6月26日-27日の2日間，札幌コンベンションセンターにおいて氷見徹夫会長のもとに開催した。
- 2) 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成24年に岡山大学大学院医歯薬総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科，西和則会長のもとに開催することが決定した。
- 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第31巻2号，3号，および第32巻1号を刊行した。
- 4) 理事会および評議委員会を平成22年6月26日に開催した。
- 5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席した。
- 6) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力した。
- 7) 会則の改定案を作成し，承認を得た。
- 8) 日本小児耳鼻咽喉科学会の役員改選の選挙事務を行った。
- 9) ad hoc委員会として，会則改定，法人組織移行検討（新公益法人制度），人工内耳，専門医制度の4つの委員会を設けた。
- 10) 小児気管切開患者のアンケート調査を支援した。

11) 庶務報告：平成23年6月15日現在

名誉会員2名

正会員969名（うち22年度入会者97名）

団体会員11名

購読会員5名

寄贈会員8名

開催当日の現会員数は995名、1000名まであと5名となった。

(4) 平成21年度決算報告（会計：小河原理事）

小河原会計担当理事より、決算報告・資産の説明があった。

(5) 会計監査報告（監事：大越，安岡監事）

平成22年5月31日に監査が行われ、適正であったことが報告された。

以上決算が承認された。

(6) 平成23年度事業計画（案）（庶務：泰地理事）

[平成23年5月1日 - 平成24年4月30日]

1) 第6回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成23年6月16日-17日の2日間、において飯野ゆき子会長のもとに開催する。

2) 第7回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成24年に岡山大学大学院医歯薬総合研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科、西和則会長のもとに開催に向け準備する。会期は平成24年6月21日-22日、会場は岡山コンベンションセンターである。

3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第32巻2号，3号，および第33巻1号を刊行する。

4) 理事会および評議員会を平成23年6月16日に開催する。

5) 日本耳鼻咽喉科学会主宰の関連する学会懇談会に出席する。

6) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。

7) ホームページの維持，充実をはかる。

8) JST電子アーカイブ事業に応募するなど，論文の電子化公開を検討する。

平成23年度予算（案）（会計：小河原理事）

平成23年度予算案について報告があった。

山嵜委員より、学会助成金・事務費が少し低めの設定だが必要なら計上されても良いのではないかとの質問があり、小河原理事より次期理事会で検討していくと回答された。

以上、予算案が承認された。

・平成23年度予算（案）（会計：小河原理事）

平成23年度予算案について報告があった。
山嵜委員より、学会助成金・事務費が少し低めの設定だが必要なら計上されても良いのではないかとの質問があり、小河原理事より次期理事会で検討していくと回答された。

以上、予算案が承認された。

(7) 学会誌編集報告（編集：工藤理事）

学会誌の発行部数について、参考文献の記載方法変更、編集委員会の開催、査読者への謝礼方法、JSTアーカイブ事業への申請と公開、「小児急性中耳炎診療ガイドライン」の一般向け小冊子について、編集委員長・編集委員メンバーの交代について報告された。

(8) 各種委員会報告

1) ホームページ委員会（副委員長：坂田理事）

年3-4回更新を行っている。今後さらにリンクを増やすなど、ホームページの充実を図っていくことが説明された。

2) 用語委員会（委員長：細井理事）

特に大きな変更はなかったと報告があった。

3) 保険医療委員会（委員長：佐野理事）

医療上必要性の高い未承認の薬物と、保険適応外薬物のアンケートについて説明があった。

4) 各ad hoc委員会

会則改定委員会（委員長：内藤理事）

今後の法人化にともなって会則改定検討や、法人化、専門医制度の立ち上げ、利益相反などを考慮する必要があると説明された。

法人組織移行検討委員会（委員長：坂田理事）

一般社団法人、NPO法人への移行についてメリットやデメリットを提示し、今後本格的に申請していきたいとの説明があった。

5) 日耳鼻の関連する学会について（市村理事長）

各学会の会期や担当校を3年先まで決定してほしいと要望があった件と、サブスペシャリティーについて報告があった。

(9) 選挙管理委員会報告（大越選挙管理委員長）

新理事の立候補者数が18名、新監事立候補者数が2名で定数内であったため選挙は行わず全員承認されたことが報告された。

新理事会で新理事長選挙が行われ、過半数を獲得した氷見徹夫教授が新理事長に就任したことが報告され承認された。

(10) 氷見徹夫新理事長挨拶

理事長就任にあたり抱負が述べられた。顧問として市村理事長が推薦され承認された。

(11) 第8回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より、群馬大学小児科の荒川浩一教授が推薦され、承認された。

(12) 第9回総会・学術講演会の会長選出の件

市村理事長より、浜松医科大学耳鼻咽喉科の峯田周幸教授が推薦され、承認された。

(13) 評議員の推薦の件（市村理事長）

竹内万彦教授（三重大学耳鼻咽喉科）

武田憲昭教授（徳島大学耳鼻咽喉科）

河田 了教授（大阪医科大学耳鼻咽喉科）

伊藤真人准教授（金沢大学耳鼻咽喉科）

余田敬子准教授（東京女子医科大学耳鼻咽喉科）

以上5名が推薦され、承認された。

(14) 第7回総会・学術講演会西和則会長挨拶

平成24年6月21日（木）・22日（金）の2日間、岡山コンベンションセンターで開催されることが説明された。

(15) 第8回総会・学術講演会荒川浩一会長挨拶

詳しい日程等は未定。この時期に前橋または高崎で開催予定と報告された。

(16) その他（市村理事長）

1) 肺炎球菌抗原検査キットは中耳炎・副鼻腔炎には感度が悪く、肺炎だけで承認されていた。その後、感度を上げた新たな製品が作られたので、インフルエンザ菌とともに、保険適応の要望書を小児耳鼻咽喉科学会・臨床検査医学会と連名で提出したいとの説明があり、承認された。

2) 日本看護協会認定看護師制度部会から, 本学会に小児救急認定看護師が参加した場合ポイントになるように認めてほしいという要望があったことが報告され承認された。参加費などについては今後検討する。

3) 市村理事長より, 東日本大震災で被災した小宮山印刷にお見舞を送ることが提案され, 承認された。

文責：安達のどか

香山智佳子

佐々木祐佳子

深美 悟